

# ほっこく 北国街道をゆく

—彦根市下矢倉から福井県今庄まで—

今も、大部分が生活道路として機能している北国街道。そこには、折りたたまれた歴史のページを開く楽しみが点在しています



## 総論

# 北国街道と北近江

長浜市長浜城歴史博物館 学芸員 太田 浩司

### 「北国街道」の経路

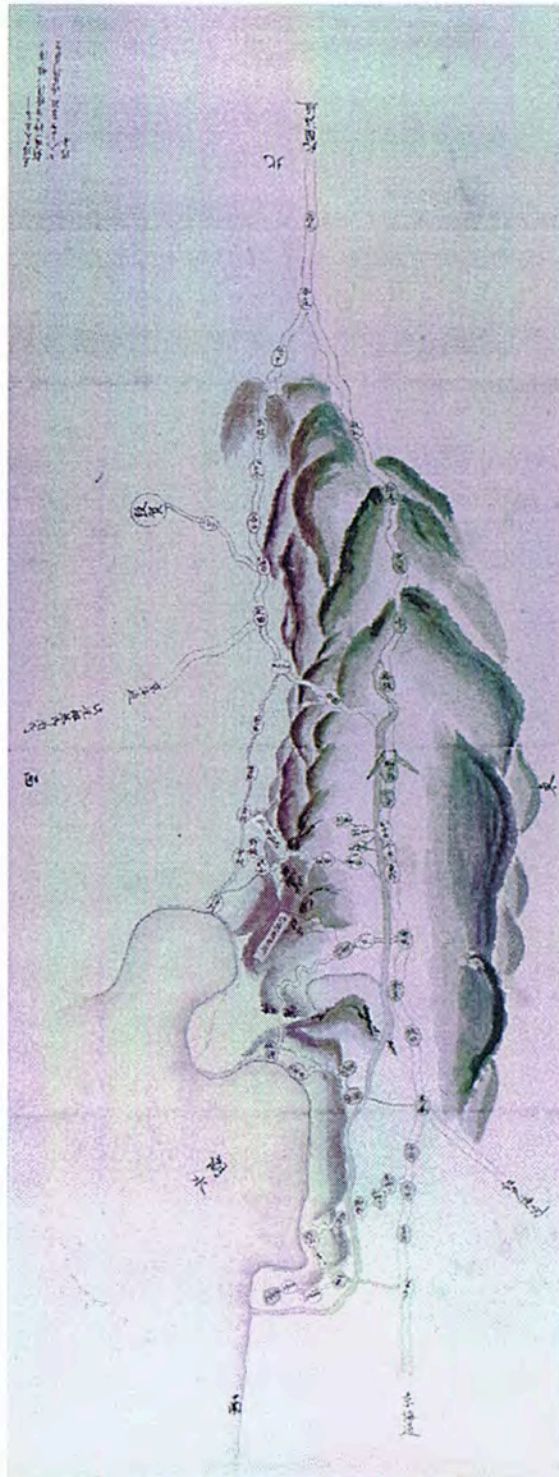
北近江を貫通する「北国街道」は、長浜を通り木之本から越前・加賀に抜ける東近江路を指し、湖西(高島市)を通り海津から七里半越えて越前に入る西近江路とは区別する。古代の北陸道は、この西近江路を通過していたようだが、時代が下るにつれ東近江路、つまり今回の特集で扱う「北国街道」の役割は増していったと考えてよい。

ここで言う「北国街道」は、中山道鳥居本宿の北にあたる下矢倉村(彦根市下矢倉町)で中山道と別れ、米原宿・長浜町・速水村と經由し、木之本宿で「北国脇往還」と合流、柳ヶ瀬村・椿坂村・中河内宿から栃ノ木峠を越えて越前・加賀に至る道であった。柳ヶ瀬の北で、敦賀に向かう刀根越と、板取・今庄・武生に向かう栃ノ木峠越とが分岐している。

### 柴田勝家の栃ノ木峠開削

天正元年(1573)に浅井氏・朝倉氏を滅亡させた織田信長は、浅井の旧領である北近江を羽柴秀吉に、朝倉氏の旧領である越前を柴田勝家に与えた。越前北庄の城主となった柴田勝家は、天正6年(1578)に信長の安土城へ通じる最短距離の軍用道路として、栃ノ木峠越の北国街道を切り開いたといわれる。栃ノ木峠越の道は、それまでまったく通行できなかった訳ではない。天正元年(1573)8月、徳川家康は小谷支援をあらかじめ退却する朝倉軍を追って、柳ヶ瀬から椿坂峠・栃ノ木峠を越えて板取へ出たという話もある(「余呉町誌」)。

しかし、「越後草」に柴田勝家が道路を整備する以前は、「近江国中ノ河内村・椿坂村



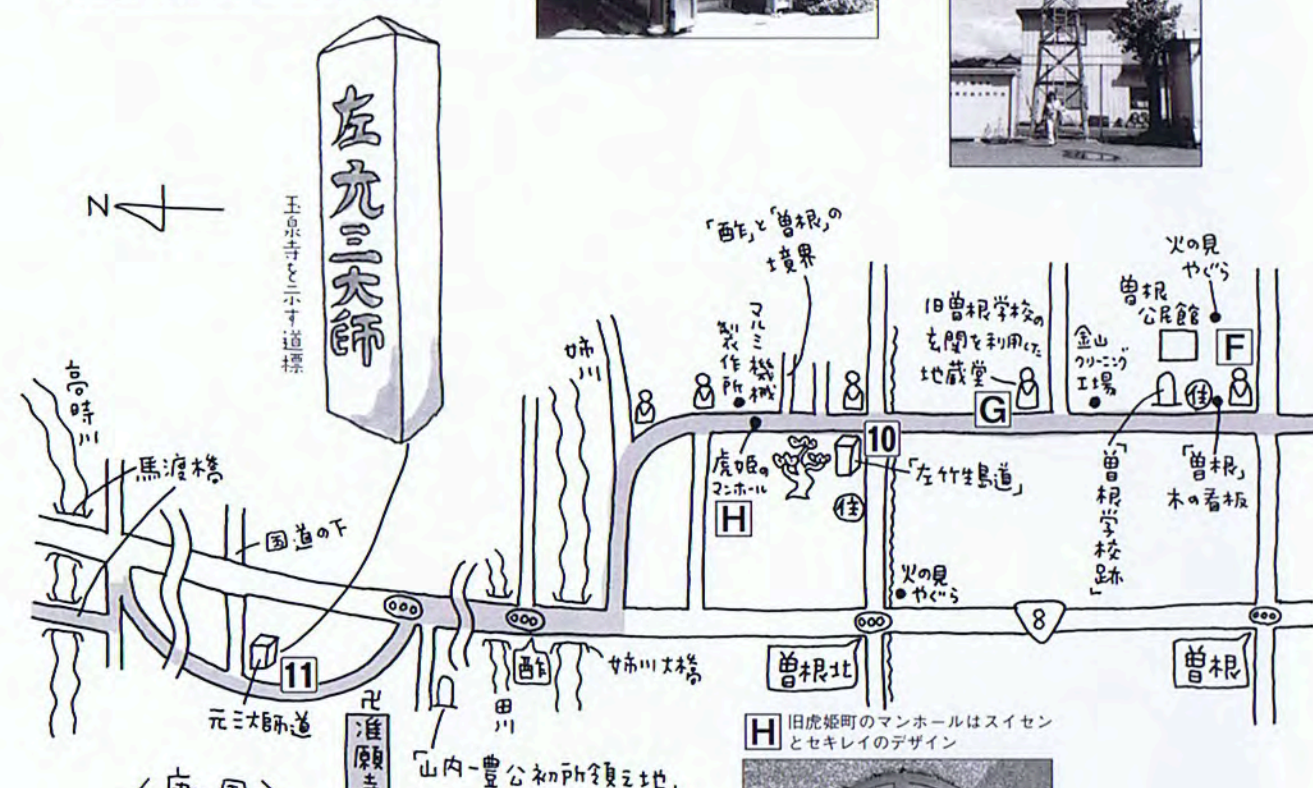
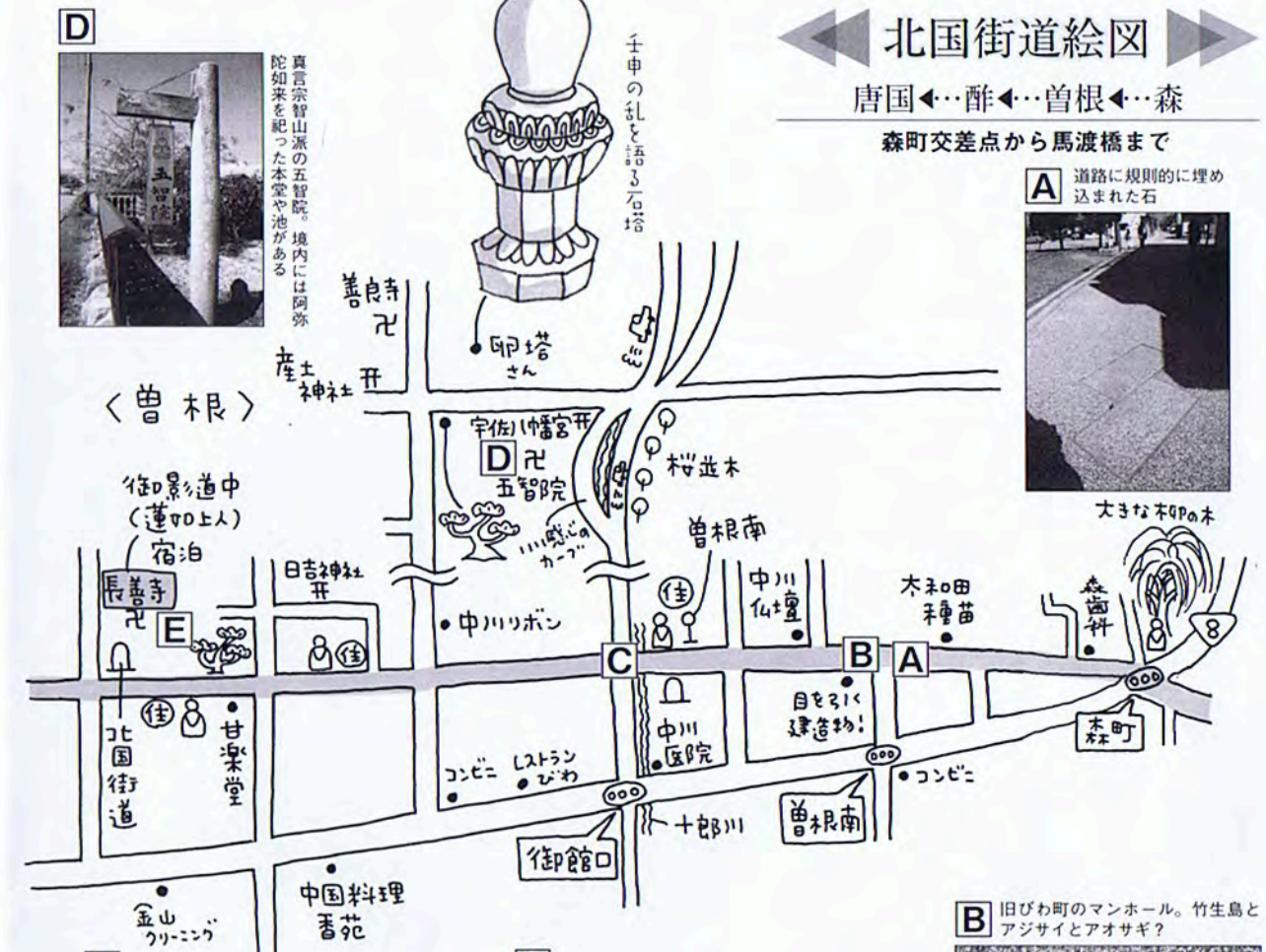
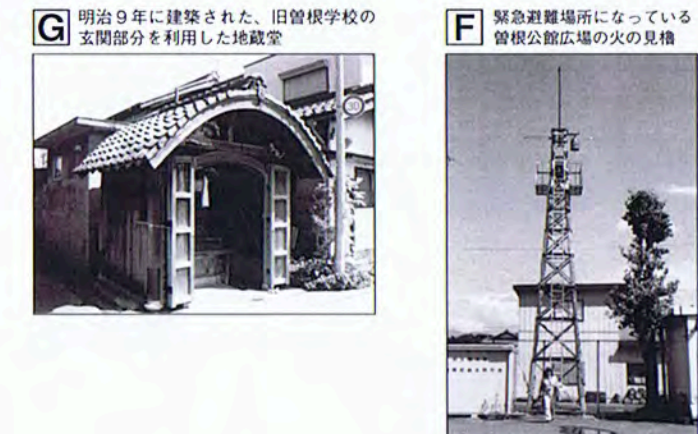
▲北国街道図(長浜市長浜城歴史博物館蔵)

# 北国街道絵図

唐国 ← 酢 ← 曾根 ← 森

森町交差点から馬渡橋まで

- 凡例**
- 取材班がたどった経路
  - 別説
  - 街道の跡
  - 公共の建造物
  - お地藏さん
  - 道標(数字は42ページ北国街道の通し番号)
  - 住宅案内図
  - 井戸
  - 曳山の山蔵
  - 寺の名
- 蓮如上人御影道中休憩・宿泊の寺 (39ページ参照)



十郎橋があつた付近の大きな石碑と案内板。ここに大橋が架かつていた様子は想像しにくい。

浄土真宗大谷派の長善寺。毎年5月6日に蓮如上人の御真影が「お泊まり」になる。

## 七つの集落名が組のみに

「森町」信号を渡り東側の旧道に入る。しばらく歩くと、道路に規則的に石が埋め込んであるAの石に気づく。また、このあたりのマンホールの図柄は鳥が描かれた旧びわ町のものB。これがのちに旧虎姫町のものに変わるのにお見逃しなく。

曾根は元々、市場、金津、長寺、綾戸、八戸、東福寺、曾根寺という七つの村に分かれていた。その名は現在も地名として存在する。また、「江戸屋」(旅館)、「めしや」(仏壇屋)、「油屋」などの屋号が残り、人びとが賑やかに行き交っていたことを感じさせる。

## 四国参りのお地藏さん

「北国街道」と刻まれた大きな石碑のそばを流れているのは十郎川C。その昔、ここには長さ100mを超える大橋が架かっていたという。道の東側の地藏堂には「五十五番 東山繁多寺」という文字が見られる。これは「湖北準四国八十八ヶ所霊場」として、四国八十八ヶ所霊場を湖北のお地藏さんにあてはめたもの。北国街道沿いにも何ヶ所もみられるが、ここ曾根には、ほかに五十三番と五十四番があり、それぞれ花を供えて大切に守られている。

## 卵形のお墓

街道を外れるが、この角を右手に進むと、真言宗智山派の五智院があるD。開放的な境内にはお稲荷さんも祀られ、東南の角には宇佐八幡宮の社もある。ちょっと不思議な空間。川沿いはのどかな桜並木だが、国道から抜ける車が絶え間なく通る。

その近くの民家の裏の畑の一角に無縫塔がポツンと立っている。地元では、壬申の乱(672年)で敗れた右大臣・中臣連金の墓といわれ、「卵塔さん」と呼ばれている。連金は、京からびわ湖を舟で運ばれ曾根の金津に上陸、長浜市

の旧浅井町内で処刑されたと伝わっている。

## 旧曾根学校の玄関をリユース

街道に戻ろう。長善寺Eは、蓮如上人御影道中の宿泊所である。「毎年5月6日の夕方4時ごろ一行がお着きになり、教導さんは書院で、ほかの方は本堂などでお休みになります。翌日は、中川リボンさんと中川医院さんのお宅にお立ち寄りになって長浜に向かわれるんですよ」と坊主さん。

曾根公園を過ぎた角に、丸みがかつた西洋的なデザインの瓦屋が特徴の地藏堂Gがある。これは登録有形文化財の旧曾根学校の玄関部分を利用したものだ。

そのすぐ北の交差点には、「左竹生嶋道」と堂々と刻まれた、高さ3mを超える道標Hがある。以前は街道の南東の角にあり、そばには松の木が街道をのぞき込むように立っていたが、平成17年の道路拡張の際、移設された。

## 唐国は山内一豊の初領地

いよいよ曾根の北のはずれに近づいてきた。マルミ機械製作所の手前の東西の細い道路が、曾根と向かい酢村の境界で、ここから北側にあるマンホールは旧虎姫町仕様Hになる。

街道は姉川の堤防のたもとに突き当たる。姉川大橋を渡って唐国の集落に入るまで国道8号を進むことになる。途中、田川を越えるが、この流れは300mほど下流で高時川と出会う川の下を交差するカルバートになり、びわ湖へと注いでいる。

唐国は、戦国時代の武将・山内一豊が初めての領地を得た場所として知られる。准願寺は蓮如上人御影道中の休憩所。その北の四つ角を東に行った高架下あたりに元三大師道を示す道標Iが立っている。

唐国を出ると、高時川にかかる馬渡橋を渡って北上を続ける。